



現場から（最近のニュースから）

## 存在価値



73歳の女性が、実在しない48歳の妹になりすまして逮捕された事件が10月にありました。その女性は、夫と共謀して実在しない妹の戸籍を取得し、その戸籍をもとに住民票やマイナカードを作り、それを持って原付免許を取りに行ったそうです。そのときに、運転免許試験場の職員が40代には見えないと追及して、発覚したということでした。女性は、70歳を超えると仕事で不利になり、若くなければ差別を受けるから戸籍で若くなろうとしたと説明していたそうです。

それについて、朝日新聞の天声人語は、宮部みゆきさんの小説「火車」を例に出して書いてありました。「火車」という小説は、犯罪を重ねて他人の戸籍を乗っ取って行く彰子という女性の話です。他人を利用しつつも1人で逃げ切りを図る彰子は、本物の自分には両親の借金など暗い過去があるゆえ、絶対に戻らないし、戻れないと、ものすごい強い意志を見せるそうです。追う刑事も、「鉄のような存在意志」だと舌を巻くほどでしたが、最後には追い詰められてしまうということです。天声人語では、「そもそも戸籍は、人が生まれてから死ぬまでの親族関係を公的に証明するものだ。自分が存在する証しに使うものでもあるだろう。たとえ消したい過去でも受け入れて、やり直していくしかない」と語り、いくら戸籍をもてあそんでも「別人になることはできない」と結んでいます。（11月24日朝日新聞天声人語より）

自分であることがいやで、いまいる場所から逃げて、自分を知っている人がだれもないところに行き、まったく新しくスタートしようとする人がいるのは聞いたことがあります。架空の人物の戸籍を作って、それによってまったく新しく、若い自分になれると考える人がいたことに驚きます。戸籍がそのように簡単に作れるものなのかと思いますが、その女性は夫が協力して、弁護士にも相談して書類を作ったそうですから、役所の手続きのめんどうさを思うと、相当苦労して手に入れたのでしょう。しかし、運転免許試験場の人が、どんなに見ても48歳には見えなくて、本人ではないだろうと追及したということですから、見た目は変わっていませんでした。天声人語のことばどおり「別人になることはできない」ということです。

人はそれぞれの人生を歩んでいます。若いから良いという風潮があるのは事実です。定年制度がある場合、自分は働けると思っても、仕事ができなくなる場合もあるでしょう。妹の戸籍を偽造した女性も、年齢によって仕事内容が制限されたことで、若くなければ差別されないと思ったそうです。ただ、仕事で制限されるからといって、ひとりの人間の価値が低くなることはありません。その人の人生は、他の人にはない価値があり、その年齢ごとに役割があります。人は動物とはちがいで「たましい」のある霊的な存在です。霊的なことを知らないと、どんなに世間で立派だと言われる学識がある人でも、動物と同じレベルで人間を考えるしかありません。それでは、自分の本当の価値は分からないのです。若くても年をとっていても、どんな過去があっても、あなたが存在していること自体に価値あり、今日に意味があつて役割があることを知って生きることができます。そのことについて、あなたにお分かちしたいことがあるのです。



## 救いの道

だれでも幸せになって、うまくいきたいのに、なぜ人生がこんなにも苦しくてつらいのでしょうか。

予期せぬ事故にあり、やることなすこと、すべてうまくいかず、会社ではやりがいどころか、仕事と人に疲れるばかりです。学校は、もはやいじめの天国になりつつあります。家庭内は冷たい風が吹き、一つ屋根の下でばらばらになり、実際に崩壊しているところも少なくありません。そのうち体は病気になる、心も病んでしまい、眠れない夜が続きます。お酒や薬に頼り、ギャンブルや快樂に走ってみても答えはありません。わらにもすがる思いで占いをし、おふだやお守りをつけてみますが、解けそうにもなく、どんどんひどくなるだけです。

ときには、表では他人がうらやむほどの成功をおさめたのに、裏は穴が開いてもれていくし、隠れた問題でなげき、ため息をつきながら人生のむなしさを感じています。胸にはぽっかりと穴が開いて、埋められません。とても憂うつになって、時々、自殺の衝動にかられます。幻聴や幻覚に悩まされるときもあります。

なぜこうなったのでしょうか。



それは、人が神様を離れているからです。魚が水を離れ、木は土から根を放り出すと枯れて苦しみ死んでいきます。人は神様に会って神様とともにいるべきたましいを持つ存在です(創世記1:27)。ですから、神様と出会う時、すべての問題が解決され、新しい人生が始まります。しかし、人は罪を犯して神様を離れてしまい、二度と神様に会うことができなくなりました。そのときから、目には見えない暗やみの力が、人を運命の力に閉じ込めて、苦しめて滅ぼしているのです。それで、どんなに暴れても抜け出すことができません。どんどん疲れはてて倒れるだけなのです。



神様は苦しみの中にいる人を愛し、この運命の泥沼から抜け出して、神様に会うことができる道を開いてくださいました。その道がイエス・キリストです。イエス・キリストが罪人の私たちの身代わりとなって、十字架を背負い、すべての罪を赦してください(ローマ



5:8)、私たちを苦しめていた暗やみと呪いの勢力を完全に打ち砕いて勝利なさいました(1ヨハネ3:8)。そして言われます。「わたしは道であり真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれ一人として神に会うことはできません」(ヨハネ14:6)イエス・キリストは神様に会う道となりました。「疲れて重荷を負っている人はわたしのところへ来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイ11:28)と私たちを招いておられます。

もうこれ以上、苦しみの人生にとどまっている理由はありません。道であるイエス・キリストを信じることで、神様に会うことができます。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」だれでもイエス・キリストを救い主として信じ、心に迎え入れれば救われます。下の「受け入れのお祈り」を通してイエス・キリストを心に迎えることができます。

「愛の神様、神様の驚くべき愛と、救いの計画を感謝します。今、私は罪人であることを認めて、悔い改めます。私の心の扉を開いて、今、イエス・キリストを私の救い主、私の神様として受け入れます。私の罪を赦してください、私を救ってくださいましたことを感謝いたします。これからは、神様のみこころに従って生きる者にしてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン」

相談のある方は、いつでも連絡ください